80 荒川橋

あらかわばし

埼玉県秩父市は県の西部山岳地域に位置し、秩父盆地にあって、セメント、織物、そして観光の町として発展してきた。その奥に秩父郡荒川村があり、秩父多摩国立公園への入口になっている。荒川橋はこの荒川村を流れる荒川にかかる。

荒川は山梨県境の甲武信岳に源を発し、荒川村、秩父市、長瀞町、そして県北の熊谷市を経て、ＪＲ高崎線、京浜東北線とほぼ並行しながら南下し、東京湾に流れ込む。かつて荒川は利根川の一支川であったが、度重なる洪水のため、寛永６年（1630）、久下村（現在の熊谷市）から新しい河川を開削して入間川と結び、ほぼ現在の河道になった。

徳川時代、江戸への交通は利根川・江戸川・荒川・新河岸川などの河川が、重要な輸送路であった。ところが、明治中期以後は経済の発展とともに、鉄道網が発達して、交通手段が河川から鉄道へと移った。ちなみに、埼玉県で最初の鉄道は、明治16年（1883）５月21日開通の上野－熊谷間である。その後、埼玉県内の鉄道網は発展していき、明治の末には熊谷から（旧）秩父間に上武鉄道が開通し、さらに昭和５年（1930）３月には三峰口まで延伸して、現在の秩父鉄道となった。この鉄道は、ほぼ荒川に沿って走っている。

一方、道路は、明治20年代に秩父－熊谷間が、明治末年には秩父－三峰間が開通して、現在の一般国道140号線がつくられた。

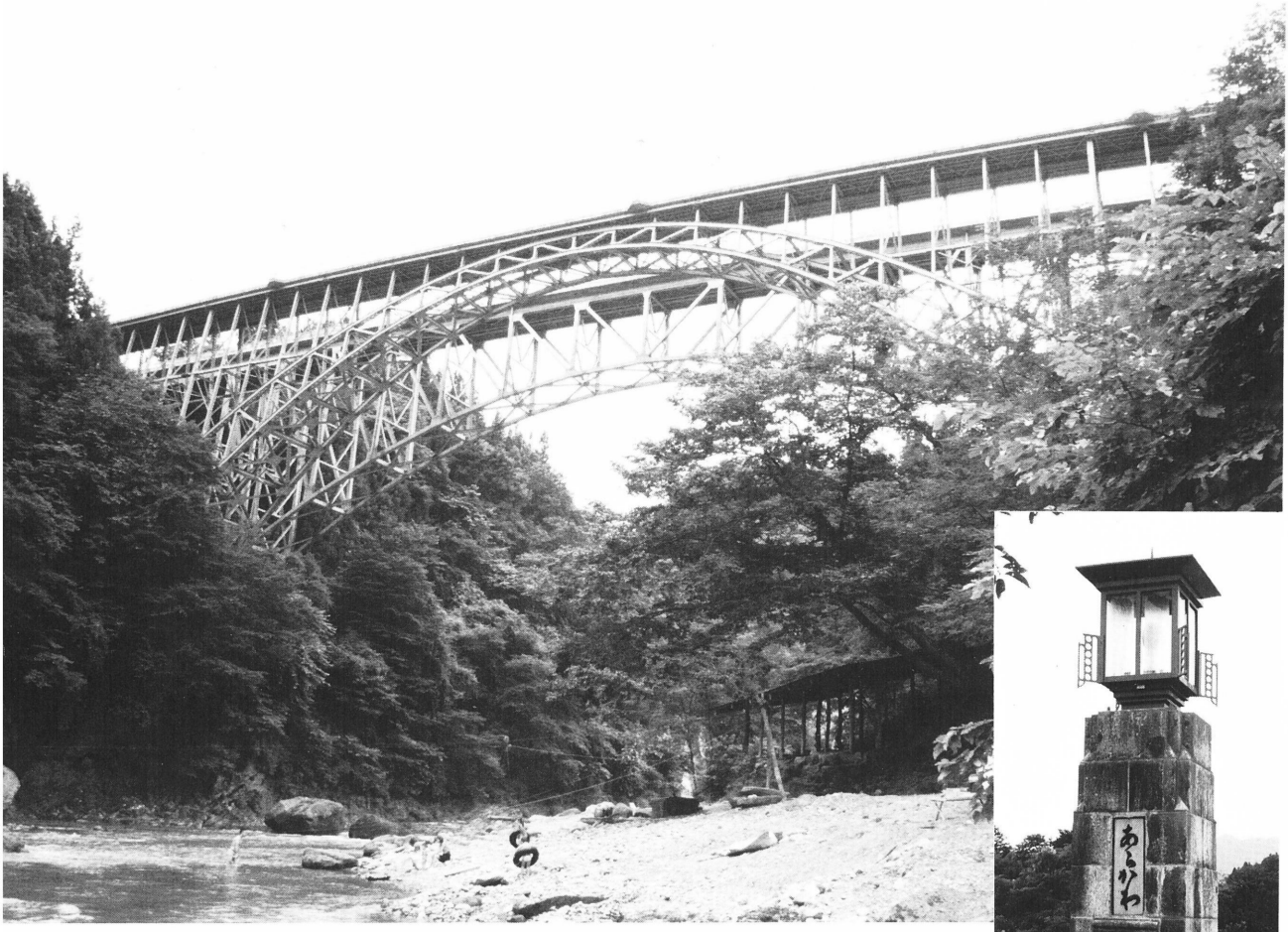
初代の荒川橋は、地元３ケ村が建設の組合を結成して、明治23年（1890）６月に着工された。しかし、工事途中の明治25年９月、暴風雨によって橋は壊滅、ふたたび工事を行なったが、これも竣工間近の明治29年１月に烈風で墜落してしまった。ようやく橋が完成したのは明治31年（1898）、木鉄混合のプラットトラス橋だった。これが初代の荒川橋である。

本文主題の橋は、初代の架け替えによってできた二代目の荒川橋である。文献には“架設年次”として、昭和３年（1928）８月９日に着工、翌４年に完成、とある。施工機械の未発達な当時として驚異的な短工期である。橋面から河床まで53m、45度に切り立った深い渓谷を軽やかにしかも力強く渡る秀麗な姿は、アーチ橋の代表例として評価された。昭和４年というと、東京では関東大震災の復興事業による隅田川の永代橋や清州橋はできたばかり、また総武本線の隅田川橋梁や松住町架道橋などの建設の槌音が響いていた頃である。

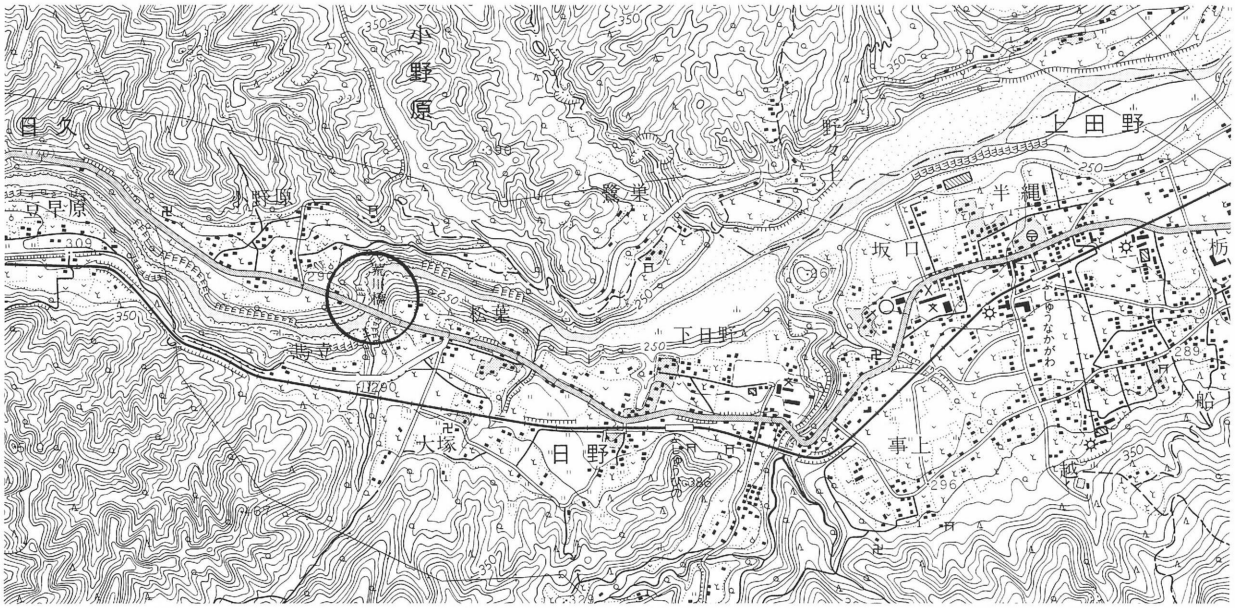
時代は下って、昭和61年（1986）、この二代目の橋に並列して新しいアーチ橋が架かり、現在は両橋が交通を上下線に分けて利用されている。出水の季節でなければ、橋のたもと近くから急な小路を歩いて、河床に降りることもできる。

約300年の歴史をもつ「秩父の夜祭」は、12月の２、３日におこなわれ、秩父の町を祭り一色に染める。勇壮華麗な夜祭は、多くの人びとを引きつける。さらに秩父には三十四カ所の観音霊場があり、老若男女の巡礼が鉱泉宿で疲れをいやすのは、今もむかしも変わらない。〔ＨＩ〕

竣工年月：昭和４年（1929）５月20日
所在地：埼玉県秩父郡荒川村
河川名：荒川
橋長・幅員：156.7m×5.5m
径間数・支間長：①１×（27.204m＋85.446m＋27.204m）、②１×15.545m
形　式：①３径間連続上路バランスドブレースドリブアーチ、②上路プレートガーダー



〈1992年８月15日，撮影・共に田島二郎〉



（1:25,000　秩父）